

2009 年 12 月 17 日 (木)

特別支援学校生徒就業体験の受入について

広島県立黒瀬・呉特別支援学校から就業体験学習受入の要請があり、本学では地域貢献の観点から、下記の内容で受入をすることとなりました。

期間中、『障害者雇用専門家』の本学 医療福祉学部 医療福祉学科 関宏之教授 指導のもと、ゼミ生（本学 医療福祉学部 医療福祉学科学生）がジョブサポーターとして、特別支援学校生の補助を行い、生徒、学生共に学ぶ試みとしています。

記

1. 期 間 2009年12月14日（月）～18日（金）
9：00～15：00
2. 就業内容 講堂・2号館宿泊施設前廊下の清掃、グラウンド整備等
3. 受入数 ・12月14・15・16日
黒瀬特別支援学校 生徒：8名 教員：4名
・12月16・17・18日
呉特別支援学校 生徒：5名 教員：3名

以上

この件に関するお問い合わせ先

広島国際大学 学長室庶務課（つがわ）までお願いいたします。

TEL：0823-70-4503 FAX：0823-70-4513 E-mail：t-tugawa@ofc.hirokoku-u.ac.jp

1, 実施の背景

- ① 知的障害のある児童生徒は、発達過程での様々な経験が制約されることで就職のイメージが持てないことが多い。
- ② 適職のイメージづくりや職業的な自立を図るためには、早期の就業体験を通じた取組の必要性が指摘されている。
- ③ 大学本来の研究機能・研究成果を地域社会へ還元することにより障害者の就労という社会的課題に貢献する。
- ④ 現在、障害者の一般就労を通じた自立が推進されている中で、大学の先進的な取り組みが求められている。

2, 目的

- ① 特別支援学校内におけるキャリア教育の一環として位置づける。
- ② 早くから自分の適性を客観的に把握し、勤労観・職業観を育てる。
- ③ 勤労の尊さや社会参加することを通して責任感や達成感を体得する。
- ④ 地域や企業の人たちとの交流を通して社会性を育成し、対人関係能力の向上を図る。
- ⑤ 就業体験を通して働くことや生活に必要な知識・技術を身につける。

3, メリット

- ① 年間の指導計画の一環として実施するので新たな費用は発生しない。
- ② 大学内にある多くの部署を利用した就業体験ができるので、一度に多くの生徒が効率的に経験ができる。
- ③ 大学内の多くの異なった部署で体験を行うことができるので、業種別の就業体験先の確保が少なく済む。
- ④ 就業体験のどこに問題があるのか、よりベターな方法は何か、検証ができる。
- ⑤ 就労希望の生徒の多くが一度に同じ場所で体験できるので、職場開拓・教師の負荷が低減できる。

4, 実施方法

- ① 広島国際大学の各部署で特別支援学校の生徒が就業体験を行う。
- ② 就業体験期間中は生徒・教師の控え室を設け、それぞれの仕事の調整を行なう。
- ③ 仕事の内容・スケジュールの詳細は別紙
講堂のいす清掃、グラウンドの整備、2号館の廊下清掃
(予備・・・パイプいす磨き、駐輪場整理、体育館の清掃)
- ④ 実施に先立ち広島国際大学長・関教授と呉特別支援学校長との顔合わせを大学内で行なう。
- ⑤ 「日本スポーツ振興センター」の災害共済保険および「インターンシップ体験活動」賠償責任保険に加入する。